

長かった7年… 第4回演奏会 北海学園大学グリークラブOB会

北海学園大学グリークラブOB
混声合唱団「樹」代表

榎 幹雄

10月8日(日)札幌コンサートホールKitara小ホールにおいて第4回北海学園大学グリークラブOB演奏会が行なわれました。今まで4年に一度オリンピックの年に行われていて本来は2020年に行なわれるはずでしたが、コロナ禍によって取りやめとなりしばらくは練習もできない状態でした。しかし昨年の春から活動を再開し札幌の春と秋の合唱祭に参加し、演奏会もぜひ復活させたいという団員からの要望も多くこの演奏会を企画しました。そしてKitaraという素晴らしいホールで7年ぶりの演奏会を行い、多くのお客様の前で晴れて演奏しました。

【プログラム】

I. 世界の歌

「Der Lindenbaum (菩提樹)」他

II. 名曲ポップス・ロックをめぐる時間旅行

「歌うたいのバラッド」他

III. OBOG会ステージ ～始まり～

「未来へ」他

IV. 男声合唱組曲「富士山」

指揮 吉浦正登(32期) 鈴木圭介(38期) 水野貴志(47期)
青木駿介(65期) 北村凌颯(66期)

ピアノ 矢持真希子(客演) 津布良佳奈(客演) 藤村美里(客演)

プログラムは、1stステージは「世界の歌」として黒人霊歌や日本の民謡、ドイツやメキシコなどの曲、2ndステージは「ポップス&ロック」で私達の好きな歌や青春時代の思い出の曲としてオフコースや斉藤和義そしてクイーンなどを歌いました。実はJ-POPや洋楽の編曲ものは北海学園大学グリークラブ(通称学園グリー)が昔から得意としているところです。

3rdステージは混声OBOGステージです。学園グリーは1951年の創設以来永きに渡って男声合唱団でしたが、平成に入ってから時代の波に影響され次第に団員が少なくなり一時は消滅するかと思われました。しかしOB会が学生に働きかけたこともあって、15年前に混声合唱団として復活し現在に至っています。そのため混声OBOGはとてもフレッシュ! しかも上手くて今回の演奏会でも素晴らしい歌声を披露してくれました。若い世代が混声になったことは少し寂しい気はしますが、しっかり復活して学園グリーの名を継承してくれたことはとて

も嬉しく誇らしいことでもあります。

最後の4thステージは男声合唱の名曲である多田武彦「富士山」。よく知られている曲ですが歌うとなるとなかなか大変な曲です。演奏会直前の一月余りは毎週土日に練習するなど努力を重ねた成果として、本番では歌っている私達自身が喜びと幸福を感じることができ、お客様からも大きな反響をいただきました。



アンコールでは、コロナ禍において歌うことの意味を考える信長貴富さん作曲「ボクはウタ」を演奏しました。歌うことを封じられた日々を思い返し、今歌っていることの喜びを噛みしめながら歌うことができたと思います。

最後に、長年学園グリーの音楽的支柱であった花田吉彦さんを紹介します。彼は、演奏会ごとに自分ですべてのパートを歌って多重録音した音取り音源(これ自体が素晴らしく芸術的な作品)を作り、OBを支えてくれていましたが、病気のため昨年春に天国へ旅立たれました。花田吉彦さんのことを多くの方に知っていただきたいと思います。



<https://www.youtube.com/watch?v=CMN11b95Af8>

榎 幹雄 プロフィール

札幌出身。北海学園大学グリークラブに入り本格的に合唱を始める。31期団長。大学時代からNOVA男声合唱団で歌い、卒業後に札幌アカデミー合唱団にも所属。23歳で東京に転勤となりコーロ・カロス、Tokyo male choir KuuKai、その後クール・ルシャンで歌う。また大学グリーの東京周辺のOBを中心に作られた男声合唱団クール・ウルスで東京男声合唱フェスティバルなどに参加。2021年36年ぶりに札幌に戻り札幌のOB会活動に参加するとともに混声合唱団「樹」に入り現在「樹」の代表を務める。